

ダイトーケミックスが創る価値 創造の歴史「未来への歩み」

当社は、「化学」というステージで新たな価値を創造し、世の中を独自の目線でとらえながら、その先に広がる新しい明日を切り拓きます。

1938 →

大東化学工業所として創立、顔料「群青」の製造販売開始。

1938年11月、大阪府北河内郡南郷村(現 大阪府大東市の一部)に、創業者石川郁二郎、社名大東化学工業所、製造品目「群青」で創業。その後、ゴム薬(硫化促進剤、老化防止剤)の製造に広がり、品質の改良を重ねた結果、業績は徐々に上向きに転じた。1942年6月には、軍需協力工場にも指定され、経営基盤も安定した。



創業当時の研究室

1949 →

ナフトール染料メーカーとして確立、東南アジア諸国への輸出を開始。

ナフトール染料の開発の成功で経営の見通しが立ったとの判断のもと、1949年12月株式会社組織に改め、株式会社大東化学工業所を設立。戦後、経済の復興の中でナフトール染料はきわめて順調に売上を伸ばし、市場を確保していった。

1962 →

当社主要製品の基礎を確立。

1962年に写真剤および1964年にジアゾ感光剤の新製品を開発し、今日の写真材料、感光性材料の基礎をつくった。1972年10月、静岡の工場用地に第1期の工場建設を完了し、写真材料を中心とする生産活動に入り、これを大浜工場(現、静岡工場)とした。



大阪事業所(1968年)

1991 →

「ダイトーケミックス株式会社」としての新たな出発。

1991年10月に「ダイトーケミックス株式会社」に社名を変更した。1992年度から始まる中期経営計画は、企業理念である「3つのグッド」を実践し、夢豊かな企業づくりを目指して、開発重視の企業への転換を進め、技術開発部を発足させた。



技術開発部研究所4号館(1994年)

2018 →

スペシャリティ・ファインケミカルズの拡充。

2001年頃から始まったIT不況により、低迷期があったが、当社の得意技術を基にスペシャリティ・ファインケミカルズへの展開を進め、その後の半導体市況の回復や最先端半導体用感光性材料やディスプレイ用材料等の売上増加により、業績を回復した。



静岡工場(2000年)

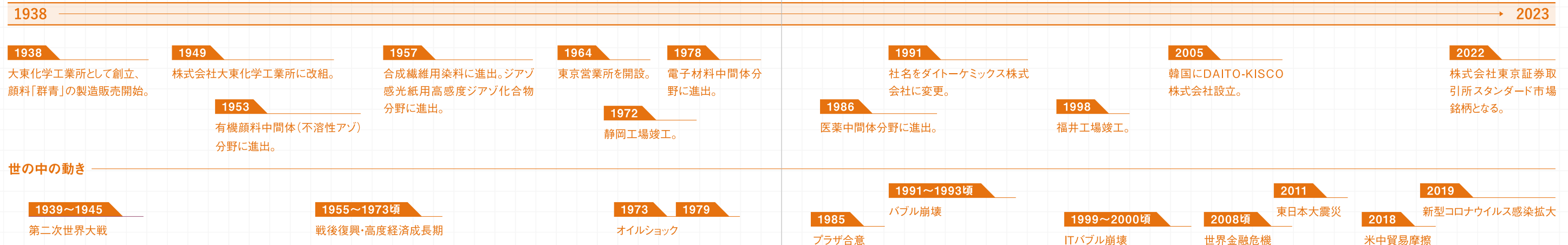
2023 →

持続的に成長するスペシャリティ・ファインケミカル企業グループへ。



2023年3月電子材料工場建設

沿革



ダイトケミックスの価値創造のプロセス

当社は、企業理念「快適でより豊かな社会づくり」のもと、常に時代が求める新たな製品・技術開発を通して新しい価値を創造し続け、持続可能な社会に貢献していきます。

理念

快適で
より豊かな
社会づくり

社会課題

インプット 2022年度

財務資本

総資産
247億円
自己資本比率
61.4%

知的資本

研究開発費
11億円
成長投資
技術力のさらなる向上を図るために2019年度からの5年間で売上高研究開発費比率8%以上を計画します。

人的資本

従業員数
228人(単体)
成長投資
持続的な成長と最適な組織運営を図るために5年間で約80人の要員を採用します。

製造資本

設備投資額
34億円
成長投資
2019年度から2023年度までの5年間で総額約80億円の設備投資を計画します。

環境

- 省エネルギー・省資源
- 温室効果ガス発生抑制
- 資源の再利用・再使用
- 化学物質の適切な取り扱い
- 環境負荷物質の低減

安心・安全

- 法律、規制、要求事項等を遵守
- 品質改善活動、要望品質確保
- 職場の安全衛生
- 製品・サービスの安全性
- 保安・防災

事業活動

CSR方針

法令遵守を始めとした企業倫理活動と「モノづくり」に欠かせないレスポンスブル・ケア活動を二つの柱とし、CSR活動に取り組んでいます。

有機合成技術

ジアゾ化合物、還元反応、酸化反応、ハロゲン化、複素環化合物、その他の有機合成技術



重合技術

溶液ラジカル重合、懸濁重合・乳化重合、沈殿重合



金属含量低減技術

再結晶、再沈処理、酸洗浄、フィルター濾過、イオン交換樹脂を用いた処理



分散技術

バス方式または循環方式による湿式固体分散および微粒子化



コーポレート・ガバナンス ▶ P29

中期経営計画

DAITO
VISION
2023

▶ P11

持続的に成長する
スペシャリティ・ファインケミカル企業グループへ

2019年5月、5か年の中期経営計画「DAITO VISION 2023」を公表。
5つの方針のもと、サステナブルな社会の実現を見据え、当社独自の技術力を活かして、既存製品の深化と新たな分野を開拓し、2023年度までの目標達成に挑みます。

リスクマネジメント ▶ P30

アウトプット

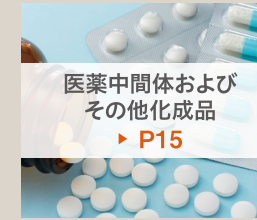
電子材料
▶ P14



イメージング材料
▶ P15



医薬中間体および
その他化成品
▶ P15



環境関連事業
▶ P16



アウトカム

経済的価値の向上

2023年度(2024年3月期)
連結経営目標

売上高 **190億円**
経常利益 **6億円**
経常利益率 **3%以上**

社会的価値の向上

一歩先をゆくスペシャリティ・ファインケミカルメーカーとして、変わらない思い「グッドマインド」「グッドパートナー」「グッドテクノ」という3つのキーワードを基本に、自らに与えられた使命を誠実に果たし、常に時代が求める新たな製品・技術開発を通して、快適でより豊かな社会づくりに貢献し続けます。



事業を通じてSDGs達成に
貢献いたします。

当社は持続可能な社会の実現に向け、製品、サービス、ステークホルダーの皆様とのかかわりを通し、これらの目標の達成に貢献いたします。



ステークホルダー

株主・投資家

お客様

お取引先

地域・社会

行政・自治体

従業員

【INPUT】ダイソーケミックスの諸資本

当社は1938(昭和13)年に顔料「群青」の製造販売で創業して以来、社会と産業の発展とともに歩んできました。このような長きにわたる歴史の中で蓄積した資本は、当社の経営基盤の源泉と

なっています。これらの資本を有機的につなげ中長期的で最大限の価値を引き出すことで、当社のさらなる成長を目指します。

財務資本



総資産 **24,698**百万円 自己資本比率 **61.4%**

健全な財務体質を向上していくとともに、資源の有効活用を図る。

健全な企業経営に努めるとともに、企業価値を高めることによって、株主の皆様へ利益還元を図っていくことが最も重要であると考えております。当社がおかれている事業環境は、急速な技術革新、新製品開発競争の激化とそれに伴うユーザーニーズへの迅速な対応が求められていることから、引き続き、内部留保資金を新製品、新技術の研究開発投資および生産対応の設備投資に有効に活用し、価値創造を支えます。

製造資本



設備投資 **3,351**百万円 製造拠点 **3**拠点(内、海外1拠点)

「ものづくり」メーカーとして、安全第一を基本に置き、QCDを大切に迅速かつ丁寧に対応し顧客満足向上。

「快適でより豊かな社会づくり」の企業理念のもと、ものづくりに取り組んでまいりました。多様化する顧客ニーズや需要変動に適切に対応するため、製品を提供する全てのプロセスにおいて持続的な品質改善活動を行い、より強固で最適な生産体制の構築を追求しています。今後も顧客に満足いただける高品質な製品を安定供給できるよう、製造資本の高度化・拡充を図っていきます。

知的資本



研究開発費 **1,145**百万円 研究開発要員 **86**人

既存技術の総合力強化と新規技術を習得し、新製品開発のスピードアップ。

スペシャリティ・ファインケミカルメーカーを指向し、電子材料分野、イメージング材料分野、医薬中間体分野および高度技術を必要とするその他化成品分野を中心として、市場ニーズに焦点をあてて新製品の開発から生産技術および新技術の開発に至るまで、積極的な研究開発活動を行っています。

人的資本



従業員数 **228**人 女性雇用比率 **7.0%**

人材育成・採用、社員教育の充実。

企業価値を高めて発展を目指すには、設備だけでなく人材が重要です。安全衛生、品質、環境、健康推進、設備、原料購入、生産管理、営業、人材教育、サービス提供など、全ては人が作りだすものであり、当社社員の総合力が重要と考えております。人間性の尊重を基本とし、社員一人ひとりが最大限に能力を発揮でき、自己実現ができる人材育成・職場環境の維持・拡充を進めてまいります。

ダイソーケミックスのコア技術

当社の技術は、創業以来の顔料や経営基盤を確立した染料を合成する技術(有機合成技術)から始まり、それらの機能性を向上させるために様々な素材を安定分散させる技術(分散技術)が発展しました。その後、ジアゾ感光剤の新製品を開発したことから電子材料やイメージング材料分野に進出し、さらに樹脂合成技術(重合技

術)を確立するとともに、高品質化に向けた金属含量低減技術の獲得へと進化してきました。

これらの4つの技術を相互に連携させることにより、顧客ニーズにきめ細かく対応した当社ならではの化学製品を作り出せる総合力が、技術面における当社の強みとなっています。

コア技術	コア技術と事業セグメントの結合	コア技術と主な製品
有機合成技術 合成染料の製造、販売を皮切りに、その技術を活かして感光性材料、印刷材料などの製造を行ってまいりました。その中で磨きをかけてきたのが「ジアゾ化合物」の製造技術。これらに付随して、ニトロ化反応、アミノ化反応、酸化還元反応、ハロゲン化反応などを得意としており数多くの実績があります。染料製造技術を発展させていったのが、写真材料の製造技術です。ジアゾ化合物に加えて、様々な複素環化合物の合成などの実績があります。また、近年では高機能触媒を用いた精密合成にも発展しています。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、写真材料、印刷材料、医薬中間体	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、カラーフィルター用材料、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、永久膜用材料、フィルム用材料、記録材料、インスタントカラー用色材、医薬中間体、ヘルスケア用途品
重合技術 当社が対応する重合方法は、溶液重合、乳化重合、懸濁重合などがあります。また、半導体用レジストに対応可能な、分子量や分散度、および不純物をコントロールした高分子化合物の製造にも対応しております。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、印刷材料	先端フォトレジスト材料、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、フィルム用材料、記録材料、印刷材料
金属含量低減技術 電子材料などの用途で要求される低金属化にも対応しております。種々の精製技術を保有しており、それらを組み合わせることで製品中の金属含量を極限まで低減します。また、品質を保証するための分析機器も各種取り揃えております。	半導体材料、ディスプレイ材料、フィルム材料、その他化成品	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、液晶ディスプレイ用材料、有機EL材料、フィルム用材料、架橋剤
分散技術 有機化合物あるいは無機化合物などの微粒子化、分散技術を有しています。粒子サイズは、数10~100ナノオーダーのレベルまで対応できます。分散機として、高性能横型湿式分散機、ナノ粒子向け分散機を所有しており、バス方式あるいは循環方式による水系、有機溶剤系の湿式固体分散および粒子化が可能です。フィルム材料、インキ材料、液晶パネル製造材料、太陽電池、二次電池用無機材料などの微粒子化に実績があります。	フィルム材料、写真材料、印刷材料、その他化成品	記録材料、印刷材料、レントゲンフィルム材料、タッチパネル用材料、二次電池用材料

DAITO VISION 2023

わたしたちは、

「快適でより豊かな社会づくり」を合言葉に、

「一歩先をゆく
スペシャリティ・ファインケミカルメーカー」

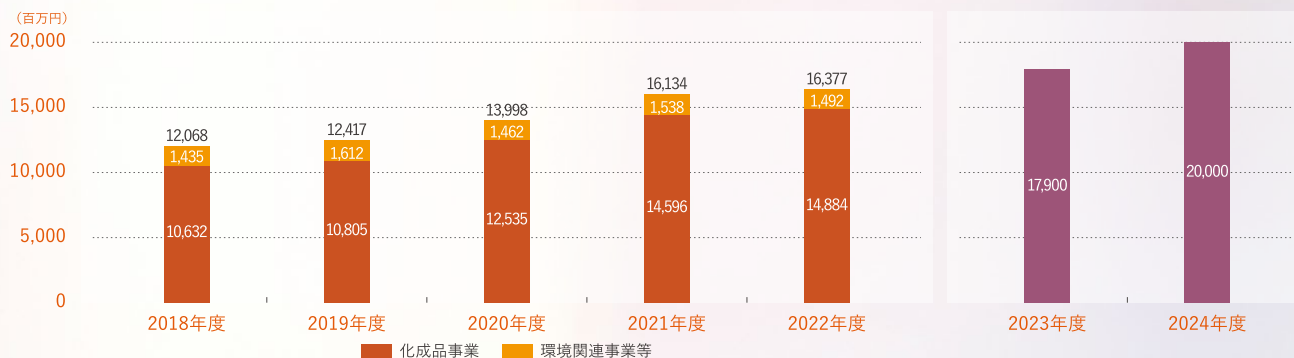
を目指します。

基本方針

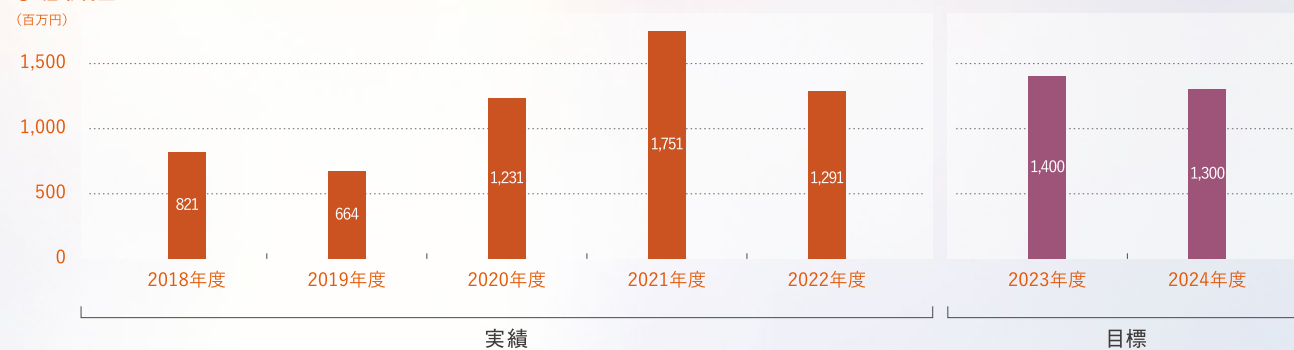
- 1 コーポレートガバナンス、コンプライアンスの充実・強化、製造、製品の環境・安全(レスポンスブル・ケア)を重視したCSRに取り組み、サステナブルな社会を実現する。
- 2 「ものづくり」メーカーとして、安全第一を基本に置き、QCDを大切に迅速かつ丁寧に対応し顧客満足を上げていく。
- 3 既存技術の総合力強化と新規技術を習得し、新規受託品、自社製品の開発を進める。
- 4 健全な財務体質を向上していくとともに、資源の有効活用を図っていく。
- 5 困難な課題にもあきらめずに挑戦し、乗り切っていく。

定量目標計画

● 売上高の推移



● 経常利益



売上高

190 億円

経常利益率

3%+α

経常利益

6 億円

設備投資(5年間)

80 億円

中期経営計画の方針と経営課題について

当社は、2019年に5年間の中期経営計画を策定しました。この5年間は、国内外において社会情勢が目まぐるしく変化しました。世界的に経済活動が厳しい中でも半導体のニーズの高まりを追い風としながら、2022年には電子材料の需要低迷など、外部環境の変化への柔軟な対応が求められています。持続可能な成長企業であり続けるために、人材の増員と教育、研究機材の充実と開発環境の整備、技術改良や新規事業の創出として自社製品の開発に取り組み、またサステナブルな社会の実現に貢献することでスペシャリティ・ファインケミカルメーカーを目指しています。

中期経営計画の進捗状況について

当社は、2022年5月に中期経営目標を上方修正し、2024年度3月期における中期的な連結ベースでの業績目標を売上高200億円、経常利益13億円、連結経常利益率6%以上と掲げました。この目標に対し、売上高163億777万円、経常利益12億9100万円となりました。この結果、経常利益率は8%となりましたが、ディスプレイや半導体などの電子材料の需要低迷の影響を大きく受けており、2023年5月に売上高190億円、経常利益6億円、経常利益率3%以上へと下方修正いたしました。外部環境の影響を受けながら、今後の成長を見据えた設備投資は61億円を実施しており、2023年度は25億円の計画です。要員に関しても目標である5年間で80人を採用のところで、76人の採用を実施しており、今年度も10人の採用を予定しています。

成長戦略と具体的な取り組みについて

当社事業分野のさらなる需要拡大に対応し、既存製品・新規受託製品の増加を目指します。さらに当社独自技術を活かした新分野の開拓、自社製品の開発を促進します。具体的には福井工場に電子材料工場を建設し、生産能力の増強によって半導体材料の旺盛な需要を取り込みます。ディスプレイ材料は既存製品と次世代表示材料の需要増加に対応します。写真材料ではインスタントカラー用色材の需要増加に対応します。医薬中間体は需要堅調な主力製品を安定的に供給します。需要増加を見据えた設備と人材への投資により、次期中期経営計画につながる基盤構築に取り組んでいます。

TOPICS

ESG私募債で資金調達

当社は、株式会社三菱UFJ銀行が取り扱う環境・社会課題解決への貢献を強く意識した「世界が進むチカラになる私募債」に賛同し、2022年12月に本私募債による資金調達を実施しました。



取締役
常務執行役員
みなみ しゅういち
南 修一